

# Economic Indicators

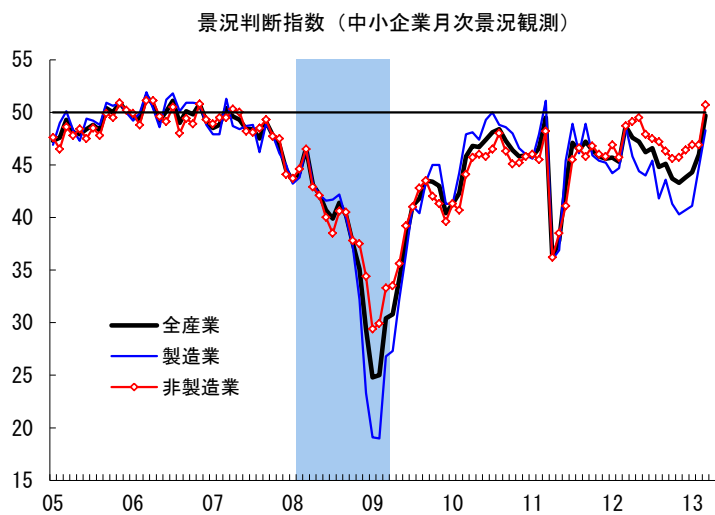
定例経済指標レポート

指標名：中小企業の業況(2013年3月)

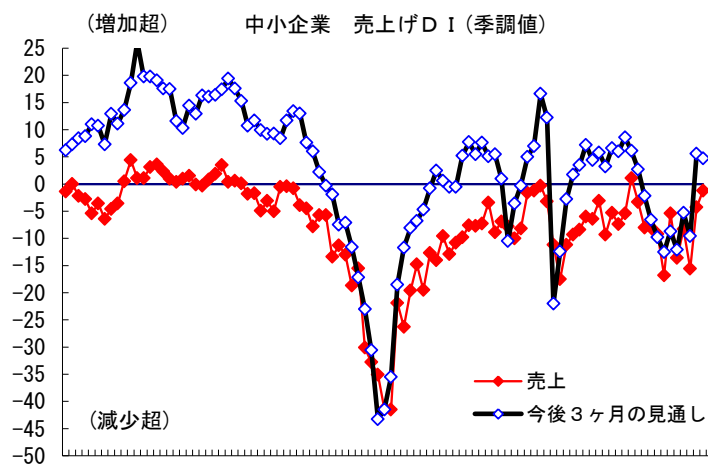
発表日2013年3月26日(火)

～50まであと一歩～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 大塚 崇広  
TEL : 03-5221-4525



(出所) 商工中金「中小企業月次景況観測」



(出所) 日本政策金融公庫「中小企業景況調査」

(注) D I = (増加-減少) 企業割合

## ○景況判断指数：好転・悪化の分岐点である50まであと一歩

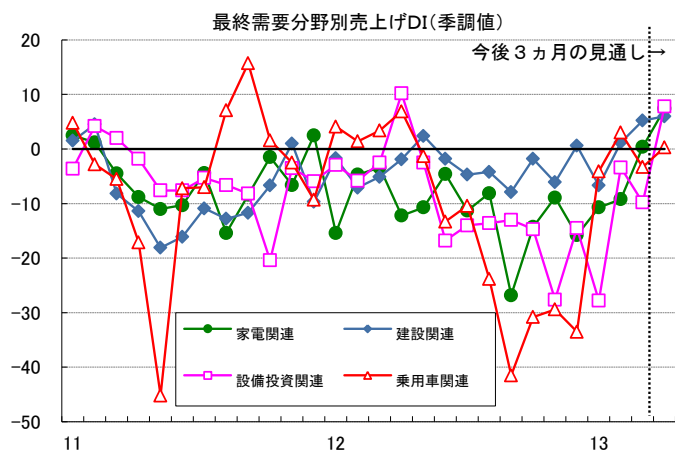
商工中金から公表された3月の「中小企業月次景況観測」（調査時点：3月上旬）の景況判断指数(1000社調査)は、全産業で49.7(2月：46.0)と4ヶ月連続で上昇した。水準としても、東日本大震災前の水準を上回り、好転・悪化の分岐点である50まであと一歩のところまで迫っている。景況判断指数は昨年春頃から軟調に推移してきたが、ここへきて回復が鮮明となっている。業種別にみると、製造業（前月差+3.5pt）、非製造業（前月差+3.8pt）ともに前月から大きく上昇した。製造業は、輸送用機械と電気機械こそ前月の急上昇の反動から今月は上昇とはならなかったものの、その他の業種はすべて上昇している。引き続き円安の進展による輸出採算の改善期待等が景況感を支えているものとみられることに加え、商工中金によれば繊維等で円安の進展により割安な輸入品の流入が抑えられている影響もあるようだ。一方、非製造業はすべての業種で上昇しており、特に今月は建設とサービスの上昇が目立つ。総じて、中小企業の景況感は昨年末頃から回復が鮮明となっており、足元の景気が回復局面にあることを改めて感じさせる内容である。

また、日本政策金融公庫から公表された「中小企業景況調査」（調査時点：3月中旬）の売上げD I（季節調整値）は▲1.2(2月：▲4.3)と2ヶ月連続で上昇した。売上げD Iはこのところは振れの大きな動きが続いているものの、均してみれば持ち直しつつあると判断されよう。最終需要分野別にみると、建設関連が公共投資の増加期待等を背景に「増加」超を維持していることに加え、これまで軟調に推移してきた設備投資関連や家電関連もここへきて持ち直しの兆しが窺える。

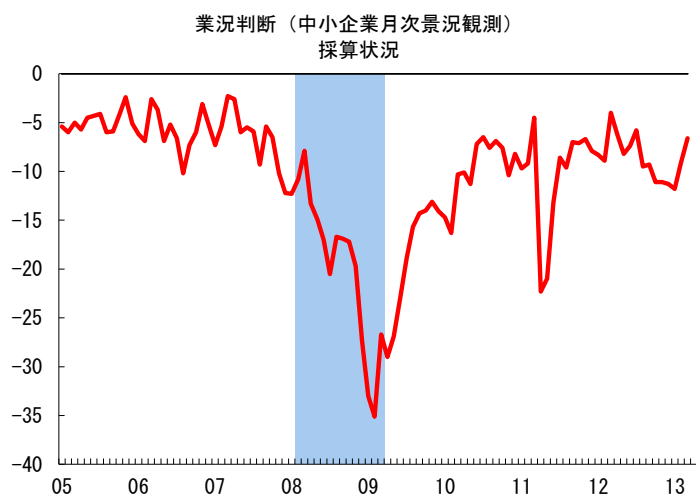
## ○先行きも回復傾向が続く見込み

4月の景況判断指数は48.8（3月実績49.7）と悪化が見込まれている。ただし、悪化幅は小幅であり、先行きは海外経済の回復や円安による輸出の持ち直しと経済対策による公共投資の増加が見込まれるため、中小企業の景況感は回復傾向が続く可能性が高い。

以前より指摘している通り、先行き懸念されるのは円安を背景とした原材料価格の押し上げによるコスト増の影響である。今のところ中小企業月次景況観測、中小企業景況調査ともに仕入価格D I が上昇する中、販売価格D I も上昇傾向にあるため、採算状況D I（中小企業月次景況観測）、利益額D I（中小企業景況調査）は持ち直している。今後も販売価格の上昇や売上高の増加を通じて、円安による原材料高を吸収していけるかが中小企業の景況感の回復ペースを左右することとなろう。



(出所) 日本政策金融公庫「中小企業景況調査」  
(注) DI=(増加-減少)企業割合



(出所) 商工中金「中小企業月次景況観測」  
(注) 業況判断=(増加-減少)企業割合